

三ノ木戸山遭難(2015年2月)

74歳男性、単独。鷹ノ巣山からの下りで三ノ木戸集落から林道を歩く予定がそのまま作業道が続いていたため尾根を下ってしまう。次第に尾根が急になり滑落。幸い携帯電話が入ったため救助を求め事なきを得た。



解説

東日原から鷹ノ巣山へ入山し、11時30分に登頂。昼食後12時10分に石尾根を奥多摩方面に下り始め、三ノ木戸山手前の分岐を右折して三ノ木戸集落から林道経由で下山予定。ところが、林道終点を見落としてそのまま下ってしまった。そこでは山道に沿って左側にモノレールが敷かれていて、林道終点を過ぎた先まで続いていた。

前方にばかり視線と意識を向けていたので左下で合流する林道に気付かずにそのまま作業道を下ってしまった。下山を続けると作業道は無くなったが、強引に尾根通しに下ったところ20m滑落し身動きが取れなくなった。

林道は大きな特徴物。見落とすことは少ないと思うのだが、モノレールがそのまま続いており注意を逸らしたのだろう。「集落が出てきたら、林道！」と大きな特徴を先読み(予測)しておくことが道迷い防止には大切なので、注意したい。